スチュワードシップ活動に関する基本方針

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント（以下「弊社」）[1]は日本版スチュワードシップ・コードの原則(以下「本コード」)を支持します。

弊社は、顧客に代わって運用するポートフォリオに含まれる投資先企業に対し、効果的なスチュワードシップを推進し、実行することにコミットしています。

弊社は、投資機能を構成する主要な資産クラスに合わせた個別の投資チームで構成されており、特定の資産クラスに対応した投資プロセスを採用し、独自の明確な投資哲学と投資信念に基づいた運用を行っています。

公開市場を対象とする運用

弊社の投資機能には、ファンダメンタル株式、債券、計量投資戦略、計量株式ソリューション、および外部委託投資のチームが含まれます。

当文書では、以下を専門とする投資チームの活動に焦点を当てます。

- ファンダメンタル株式
- 債券
- 計量投資戦略
- 計量株式ソリューション

オルタナティブ

弊社は、あらゆる主要な資産クラスにわたる投資運用ソリューションを、多様な機関投資家顧客および個人顧客に提供しています。弊社は、スチュワードシップが弊社の公開市場を対象とする投資運用を超えて適用され、弊社がサービスを提供するすべての資産クラスに関連性があると考えています。弊社のオルタナティブ部門は、多くの問題に関して緊密に連携しながらも別々の投資チームで構成されており、独自の明確な投資哲学と投資信念に基づいて異なる投資プロセスを採用しています。

弊社のグローバル投資チームは、現地市場および業界固有の専門知識をもたらし、さまざまなオルタナティブ戦略に係る投資をソーシング、評価、実行します。当文書では、以下を専門とする投資チームの活動に焦点を当てます。

- コーポレート・プライベート・エクイティ
- グロース・エクイティ
- サステナブル投資
- プライベート・クレジット
- インフラ投資

[1] ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社およびゴールドマン・サックスで投資運用業務を行う関係法人を総称して「ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント」あるいは「GSAM」と呼びます。

- 不動産

弊社の投資活動、方針および枠組みの適用は、投資対象に対する影響力/支配力の程度の違いに応じ、オルタナティブ事業全体で異なります。

原則1　機関投資家は、スチュワードシップ責任を果たすための明確な方針を策定し、これを公表すべきである。

弊社の文化の強さ、戦略を実行する能力、顧客との関連性は、多様な従業員と、幅広い視点を奨励する包括的な環境に依存すると考えています。弊社は、多様な投資チームから構成されるフルサービスの資産運用会社です。弊社はニューヨークに本社を置き、世界中にオフィスを構えています。弊社の投資専門家は、その多様な経験と知見を投資プロセス、分析、統合、エンゲージメントにおけるそれぞれの役割に活かしています。私たちは、投資のアイデアは世界的な専門知識と地域特有の知見によって豊かになり、さまざまな地域の顧客との近接性が強力な協力関係を生み出すと強く信じています。

弊社のスチュワードシップの考え方と方針

公開市場を対象とする運用

弊社の「スチュワードシップへのアプローチ」と「グローバル議決権行使ポリシー」は、効果的なスチュワードシップを発揮するために毎年見直され、必要に応じて更新されます。このプロセスはスチュワードシップ責任推進部が主導し、弊社の事業全体にわたるさまざまな投資専門家やチームからの意見やフィードバックを求めることが含まれます。これらのポリシーを毎年見直すことで、弊社のスチュワードシップ活動が優先事項や投資信念に沿ったものであることが保証されます。
弊社は、専任のスチュワードシップ責任推進部の専門知識とファンダメンタルズ投資チームの専門知識を組み合わせた、強力でグローバルなエンゲージメントの取り組みを行っています。エンゲージメントへのアプローチに関する情報については、弊社 Web サイトの「スチュワードシップへのアプローチ」文書を参照してください。この文書では、弊社のスチュワードシップの枠組みを紹介しています。このフレームワークでは、主要なスチュワードシップ目標を説明し、議決権行使とエンゲージメントの取り組みがその目標を達成するのにどのように役立つかを説明します。スチュワードシップ責任推進部は、このフレームワークを毎年更新します。
弊社のグローバル議決権行使ポリシーは、ガイドラインが効果的なスチュワードシップの発揮に寄与するために、さまざまな投資チームによって毎年承認されています。

スチュワードシップのリソーシング

スチュワードシップ責任推進部について

公開市場を対象とするビジネスにおいて、弊社のスチュワードシップ責任推進部は、スチュワードシップへのアプローチを常に向上させ、世界各地の公開市場を対象とする運用部門専用ソースとして機能し、以下の3つの中核的活動を柱としています。

エンゲージメント：投資家に代わりその投資先企業の経営陣との対話を行います。

議決権行使：投資家に代わり企業において議決権を行使します。

業界におけるリーダーシップ：スチュワードシップ全般の知見を共有しベスト・プラクティスの確立を目指します。

弊社のスチュワードシップ活動を支える各組織

スチュワードシップ責任推進部				
投資チーム				
債券運用	ファンダメンタル株式運用	外部委託投資	計量株式ソリューションズ	計量投資戦略

その他リソース		
法務部	**コンプライアンス**	**オペレーションズ**
エンゲージメント・イニシアチブや議決権行使に関する助言 スチュワードシップに係る方針やガイドラインのレビュー	情報障壁を確立し、利益相反の影響を除外するための社内ポリシーや手続きの維持 政策・規制・レピュテーション等に対する助言	アセットサービスやトレードマネジメントチームによる議決権行使の実行 ファンドレポーティングチームによる顧客への報告書作成

上の表は、弊社の組織構造が弊社のスチュワードシップ活動をどのようにサポートしているかを示しています。スチュワードシップ責任推進部は、さまざまな投資戦略に応じてさまざまな方法で、必要に応じて投資チームと連携し、必要に応じてコンプライアンス、法務、運用、リスクなどの追加リソースによってサポートされています。スチュワードシップを弊社の投資チームの活動に統合するというアプローチと並行して、この構造により、弊社は柔軟かつ即応性のある方法でスチュワードシップ活動に適切なリソースを投入することができます。

<u>オルタナティブ</u>

スチュワードシップのリソーシング

第1ライン機能	第2ライン機能
投資チーム	法務、コンプライアンス、リスク、オペレーションズ
その他リソース	
投資委員会 サステナビリティとインパクトチーム サステナビリティ・リーダーシップ・カウンシル バリュー・アクセラレーター	

オルタナティブにおいては、企業または資産への投資または融資のプロセスは主に投資チームによって実行され、それぞれの投資委員会によって監督され、ゴールドマン・サックスの他の委員会やワーキンググループからの意見も得られます。適切な場合において投資チームは外部のアドバイザーやコンサルタントを雇用することもあります。

投資チーム:シニア・リーダーシップの監督と支援を受けて、投資チームは関連するスチュワードシップへの配慮が取引のライフサイクルに確実に組み込まれるようにするにする責任を負います。GSオルタナティブ部門は、プライベートエクイティ、プライベートクレジット、インフラ、SIG、不動産の各事業に投資するESGビジネスリードを擁しています。彼らは、各事業部門の投資プロセスにスチュワードシップとサステナビリティに関するベストプラクティスを組み入れ、実施する責任を負っています。

第2ラインの機能：法務、コンプライアンス、リスクなどの二次管理部門は、助言機能を担います。我々の「Operational Risk Environmental Group」は、優れた技術専門知識を有する環境専門家からなる社内チームで、環境・健康・安全(EHS)と気候関連の問題について綿密なデューデリジェンスを実施し、ビジネス・チームの取引リスクを特定・緩和します。さらに、ゴールドマン・サックスにおけるフィジカル・コモディティ・レビュー・グループ(PCRG)は、ゴールドマン・サックスがフィジカル・コモディティ関連の活動への従事、投資、資金調達に伴うEHSリスクの評価と管理に一貫したアプローチをとることを担保しています。

投資委員会：GSオルタナティブには、ゴールドマン・サックスのシニア・プロフェッショナルおよびその他のコントロールサイド・プロフェッショナルで構成される独自の投資委員会(IC)があります。ICは、サステナビリティやESGに関連するものを含め、それぞれの戦略やファンドのマンデートに沿った投資を承認します。ICは、投資の可能性を評価する際には、ビジネス、法律、規制、評判、その他のリスクと問題とともに、関連するESGリスクと機会を適切に検討します。気候関連リスクの可能性は一般にICメモを通じてICにエスカレートされます。

サステナビリティ&インパクト・チーム：サステナビリティ&インパクト(S&I)チームは、プライベート・マーケッツ・インベスティングのチーフ・サステナビリティ・オフィサーが主導し、GSオルタナティブ全体のESGプラクティスの制度化、データ収集と監視の強化、新たな規制要件と規制の導入と報告、サステナブル・ファイナンス分野の最新情報に関するGSオルタナティブとのコミュニケーションに重点を置いています。これには、ESGガバナンス・フレームワークの研修、設計、実施、ESGデータの分析、戦略的イニシアチブの策定が含まれます。S&Iチームは、社内リソースだけでなく社外カンファレンス、カウンセラー、アドバイザー等も活用し、ESG規制や業界基準の今後の見直しと開発を継続的に進めており、必要に応じて我々自身のESGプロセスの改善を実施しています。S&Iチームは投資専門家、オルタナティブ・キャピタル・フォーメーション(ACF)、ファンド&インフォメーション・マネジメント・グループ、法務、コンプライアンス、オペレーショナル・リスク環境グループと密接に連携し、GSオルタナティブのESGプログラムを設計、実施、提供、強化、監督しています。

サステナビリティ・リーダーシップ・カウンシル：同カウンシルは、ビジネス部門および管理部門のシニア・リーダーで構成され、戦略目標や同部門のコミットメントなど、ESG関連のトピックに関する更なる監督と方向性を与えるものです。これは、サステナビリティ戦略（責任投資を含む）とGSオルタナティブの主要なサステナビリティ・イニシアチブの推進を支援します。メンバーには、プライベート部門のサステナブル投資のグローバルヘッド、各ビジネスのリーダー、ACFの代表者、各資産クラスの最高執行責任者、法務・コンプライアンス部などのコントロール部門の代表者が含まれます。

バリュー・アクセラレーター：GSオルタナティブは、ゴールドマン・サックス・バリュー・アクセラレーター（「GSバリュー・アクセラレーター」）を通じて、ゴールドマン・サックスの広範なネットワークや当社の著名な経営アドバイザー、セクター・エキスパートへのアクセスを促進することで、多くのポートフォリオ企業を支援しています。GSバリュー・アクセラレーターは、当社ポートフォリオ企業と提携してサステナブルな事業を構築し、付加価値を創出する集中型プラットフォームです。GSバリュー・アクセラレーターは世界中のポートフォリオ企業と連携し、経営陣に支援を提供します。株式投資において、バリューアクセラレーターは、以下の5つの主要分野でポートフォリオ企業の価値向上を目指しています；

1. 収益拡大のスケーリング
2. オペレーショナルエクセレンス
3. 技術、デジタル、データの変革
4. 人材・組織戦略
5. サステナビリティの最適化

原則2　機関投資家は、スチュワードシップ責任を果たす上で管理すべき利益相反について、明確な方針を策定し、これを公表すべきである。

潜在的な利益相反について

弊社は、弊社の事業におけるさまざまな潜在的な利益相反に直面しており、これらの潜在的な事例は米国証券取引委員会（SEC）への提出書類である「FormADV」に示され、かつ弊社のWebサイトにも公開されています。潜在的な利益相反の一部は、弊社のスチュワードシップ責任に関連しています。これには、たとえば、ゴールドマン・サックス（および該当する場合はゴールドマン・サックスの担当者）が、弊社が購入、売却、または保有する可能性のある投資について、複数の助言、取引、財務およびその他の利益を有する可能性が含まれます。したがって、これらの活動は、理論的には、取引、議決権行使、およびエンゲージメントなどの投資先企業とのその他のやり取りに関する弊社の決定に影響を与える可能性があります。投資先企業またはその年金制度などの関連当事者自体が弊社の顧客である場合にも、潜在的な利益相反が生じる可能性があります。

利益相反に関する方針、対策の手続き

また、弊社の利益相反対策には以下のような内容が含まれます。

情報障壁・業務単位ごとの隔離：ゴールドマン・サックス各部門間、および弊社各部署間は必要に応じて、物理的、業務プロセスおよびサイバースペースにおける障壁を設けております。これにより、ゴールドマン・サックスおよび弊社各部署間での情報漏えいを防ぎつつ、明確に分離された業務遂行を実現しており、潜在的な利益相反の可能性を最小限に抑えられると考えております。

社内規程と手続き(各種規制等に基づくもの)：グローバルなビジネス展開をする上でゴールドマン・サックスは、各国の法律・規制の管轄下にあり、利益相反が生じないように管理・監督するよう求められています。弊社では、それらの法律・規制に則り、エスカレーションの規定を含む社内規程および手続きを策定しております。特に、弊社においては、投資運用に係る顧客の代理人またはアドバイザーとして、受託者としての責務を全うする立場から利益相反管理が適切に実施できる体制を整備しています。

ガバナンスと監視体制：弊社ではコンプライアンス部によるモニタリングやテスティング、取締役会を含む各種委員会による監督、内部監査部による主要部門に対する継続的な業務監査を通じ、情報障壁、社内規程や手続きおよび顧客からのガイドラインに即して業務が遂行されることを確保する体制が取られています。

給与・報酬体系：弊社の給与・報酬体系は、適切な範囲において社員、株主および顧客の利害の一致がなされるように設計されており、また社員が過剰なリスク選好を行わないよう配慮もされています。

適切な情報開示/顧客に対する透明性：情報開示それ自体は、利益相反の適切な管理に代わるものではありませんが、顧客が弊社と事業上の関係を持つにあたり、弊社の事業運営の状況を理解し、弊社の直面する潜在的な利益相反とその自由について適切に把握できることが重要であると考えています。

原則3　機関投資家は、投資先企業の持続的成長に向けてスチュワードシップ責任を適切に果たすため、当該企業の状況を的確に把握すべきである。

弊社では、お客様に代わって管理するポートフォリオに含まれる企業間で効果的な管理を推進し、実行することに尽力しています。

弊社におけるシステム、プロセス、調査および分析

公開市場を対象とする運用

弊社は、スチュワードシップ責任を果たすためのテクノロジーに投資を行っており、これを今後も継続します。弊社の運用チームは、自身の投資をよりよく理解し、顧客のニーズによりよく応えるために、弊社内のシステムとツールを活用しています。弊社の運用チーム向けに実施されているシステムとプロセスには、以下のような例が挙げられます。

- **ESG評価フレームワーク**: 特定のポートフォリオについては、弊社の運用チームは、弊社独自のESG評価フレームワークを利用して、ファンダメンタル分析の重要な要素のとしてESG分析を実施することを目指しています。これにより、各アナリストはESGデータを解析し、標準化された方法で発行体レベルで重要なリスクと機会を評価できます。弊社、サステナブル会計基準(SASB)による指針と弊社独自の見解を活用して、企業の成長、収益性、およびリスクにとって重要であると考えられるESG要因に焦点を当てています。評価フレームワークには、会社の経営陣、顧客、サプライヤー、競合他社とのミーティングを含む、毎年の何千回もの調査取材に基づいて得られる、定量/定性両面における知見が織り込まれています。
- Fluent: 議決権行使記録、エンゲージメント情報、企業固有のESGデータ、およびESGに基づく一部の企業の社内ビューを含む、独自のESG評価フレームワークを記録する独自の分析ツールです。所属により、ESG評価フレームワークによるESG調査の情報も参照できます。
- Concert: 適切な場合において、弊社の運用チームは、MSCIデータを活用する独自のポートフォリオ管理ツールを活用して、ポートフォリオ診断を実行し、炭素集約度の度合いを評価し、製品の関与を分析するなどの機能を利用できます。

オルタナティブ

投資委員会は、分析、投資理論、デューデリジェンスの結果、評判の考慮事項、および投資委員会会議で提示された推奨事項に基づいて、ゴールドマン・サックスが投資を行うべきかどうかを決定しますが、それには一定の条件が適用される場合があります。投資委員会がその機会を追求することを決定した場合、投資チームは社内および社外のアドバイザーと協力して、投資機会に関するビジネス、会計、法的およびその他のデューデリジェンスを完了し、関連する資金調達を含む取引のストラクチャリングをサポートし、取引に関連する最終的な決定を行います。

投資チームは、価値創造に重点を置き、取引完了後に投資のパフォーマンスを監督します。投資チームのメンバーは、投資が行われた後、ポートフォリオ企業の取締役会のメンバーを務めることもあります。これらのメンバーは取締役として、会社の業績と戦略を監督し、注力する立場になります。この点において、取締役を置くことは、投資チームが環境、健康、安全のリスクやコンプライアンス問題を含む会社のリスクプロファイルや潜在的な風評リスクを監督するのにも役立ちます。

社内における協議において、投資チームは投資の潜在的なエグジットのタイミングについて議論します。株式の典型的なエグジット方法には次のようなものがあります。(i)公募または私募による売却。(ii)戦略的または財務的な買い手への販売。(iii)資本増強。クレジット投資の場合、返済または第三者への借り換えによってエグジットプロセスを完了することもできます。撤退プロセス全体を通して、投資チームは通常、それぞれの投資委員会と協

力して、売却価格を交渉し、投資のエグジットを計画し、エグジットプロセスに関与する内部および外部のアドバイザーと調整します。

オルタナティブにおいても、弊社の投資チームとその管理活動をサポートするためのツール、またポートフォリオ企業をサポートするためのツールに投資しており、今後も投資を続けます。これらには以下が含まれますが、これらに限定されません。

- **サステナビリティリスクとESGの統合**：弊社の投資委員会は、投資チームやその他の企業リソースからの集合的な情報を評価して投資を検討します。デュー・デリジェンス・プロセスの一環として、投資委員会には通常、デュー・デリジェンス・プロセスによって通知され、また機会の性質に基づいて投資の主要なリスクの概要を説明する覚書が提出されます。覚書には通常、ESGデューデリジェンスのテンプレートも含まれます。
- **温室効果ガス（GHG）排出量会計**: オルタナティブチームは炭素会計プラットフォームと提携し、ソフトウェア・ツールを使用して特定のポートフォリオ企業のGHG排出量会計を支援するとともに、気候戦略と排出量削減の取り組みをサポートする専用のアドバイザリー・サービスを提供しています。
- **公益事業におけるデータ収集**: 不動産投資チームは、資産レベルでエネルギー、水、廃棄物のデータを収集する不動産の公益事業データ収集プラットフォームを使用しており、不動産投資チームが運用上の炭素排出量をトラッキングできるようになります。

原則4　機関投資家は、投資先企業との建設的な「目的を持った対話」を通じて、投資先企業と認識の共有を図るとともに、問題の改善に努めるべきである。

公開市場を対象とする運用

エンゲージメントへのアプローチ

スチュワードシップに対する我々のアプローチの重要な構成要素の1 つがエンゲージメントです。エンゲージメントは、長期的な価値創造に寄与し得ると我々が考える重要な問題について、経営陣や取締役に対して我々の見解を共有してフィードバックを提供することのできる対話の場となります。エンゲージメントではまた、議決権行使にあたっての判断材料や投資調査の裏付けとなる情報が得られる場合もあります。

弊社では、エンゲージメントを以下の4 つのタイプに分類しています。

テーマ別エンゲージメント
定義：テーマ別エンゲージメントは、特定のテーマに特化したもので、我々のスチュワードシップ・フレームワークに従って事前に目標が定められています。
例：取締役会の多様性に関する我々の基準を満たしていない発行体に、取締役会における女性比率を高めるよう促すためのエンゲージメント。

議決権関連のエンゲージメント
定義：議決権関連のエンゲージメントは、議決権行使に関する意思決定のための情報を得ることを意図したものです。
例：役員報酬について発行体と議論するために、定時株主総会に先立って実施するエンゲージメント。

フィードバックの提供
定義：フィードバックの提供は通常、開示などの事柄に関する指針を求める発行体の要請に応じて行われます。
例：直近のサステナビリティ・レポートに対するフィードバックを求める発行体とのエンゲージメント。

投資調査とモニタリングとしてのエンゲージメント
定義：投資調査とモニタリングとしてのエンゲージメントは、主に情報を求める際や投資の意思決定における判断材料を得るために行われます。
例：業績、事業活動、その他の戦略的事項についてリサーチ・アナリストが行うエンゲージメント。

公開市場を対象とする運用部門のためのエンゲージメントのアプローチでは、スチュワードシップ責任推進部の専門知識やリソースと公開市場を対象とする運用グループの深いセクター知識が総合的に利用されています。スチュワードシップ責任推進部は、エンゲージメントに対するアプローチを管理し、テーマ別エンゲージメントと議決権関連のエンゲージメントの多くで主導的役割を果たしています。このようなエンゲージメントは、ファンダメンタル株式運用グループ、債券・通貨運用グループが継続的な調査活動の一環として毎年行っている何百回ものエンゲージメント・ミーティングに加えて実施されます。弊社が開発した独自プラットフォームFluentにより、会社側見解、エンゲージメント、議決権行使の結果を追跡・分析し、重要性がある場合には、その情報を投資の意思決定に組み込むことが可能です。公開市場を対象とする運用部門の全メンバーが、Fluentを利用できます。

更なる情報についてはOur Approach to Stewardshipも併せてご参照ください。

オルタナティブ

ポートフォリオ企業、スポンサー、資産運用会社に対する積極的な監視とエンゲージメントは、我々の事業にとって重要な側面であり、アクティブ・オーナーまたはレンダーとしての責任を非常に真剣に受け止めています。我々はポートフォリオ企業、スポンサー、資産運用会社と協力して、エンゲージメントの取り組みにおいて付加価値向上と維持の機会を見出します。我々の投資チームは、適切な場合には経営陣と連携し、投資先である企業や資産のガバナンスとオペレーションを向上させています。しかし、投資の性質や持ちうる影響度により、投資戦略や資産クラスによってエンゲージメントの方法や頻度は異なります。

ポートフォリオ企業のエンゲージメントに関する我々の目標は、一般にファンドのマンデートに基づく新規投資のデューデリジェンスプロセスで特定され、保有期間中に更新される可能性があります。我々は通常、ミーティング（対面またはバーチャル）を通じてエンゲージメントを行います。エンゲージメント活動は、必要に応じて各ICで定期的に議論される可能性があります。

また、ゴールドマン・サックス・ネットワーク、差別化されたリソースネットワーク、当社の著名な経営アドバイザーやセクター・エキスパートを活用して当社ポートフォリオ企業と連携する集中型プラットフォームであるゴールドマン・サックス・バリュー・アクセラレータを通じて、特定のポートフォリオ企業を支援しています。

原則5　機関投資家は、議決権の行使と行使結果の公表について明確な方針を持つとともに、議決権行使の方針については、単に形式的な判断基準にとどまるのではなく、投資先企業の持続的成長に資するものとなるよう工夫すべきである。

公開市場を対象とする運用

議決権行使へのアプローチ

議決権による株主（投資家）の権利行使は、これを弊社に委任した投資家に対するポートフォリオ運用サービスの重要な要素です。弊社が受託者として議決権を行使する指針は、企業の株主価値の最大化に資することと考えられる議案に賛成することで、投資家にとって最善の利益となり得る意思決定を目指すことです。こうした指針は、健全なコーポレート・ガバナンスによって、企業は株主の長期的な利益に資するための経営体制を構築することができるとの弊社の考えを反映しています。

公開市場を対象とする運用について、弊社は、投資家から委任された議決権行使の責任を果たすためにカスタマイズしたグローバル議決権行使方針（以下、「本方針」）を策定しました。主要なガバナンス・テーマに関する現状の課題や日々変化する最新の見解を取り入れるために、年に一度本方針の更新を行います。本方針は地域別に分かれており、地域や国に特有の議決権行使にきめ細かく対応できるようデザインされています。

議決権行使を監督するために、弊社は、スチュワードシップ責任推進部、株式を運用する運用チーム、部門のマネジメントおよび法務・コンプライアンス部門の関係者からなる弊社 Public Markets Equity Business Proxy Voting Council（議決権行使委員会と以下表記）を設立しました。この議決権行使委員会の目的は、主要な関係者が集まり、毎年の本方針の見直しと方針変更の可能性についての提言、議決権行使プロセスの変更の可能性に関する議論、議決権行使における最新の重要テーマについての議論を行うことです。議決権行使のアプローチの詳細に関しては、ウェブサイトのグローバル議決権行使方針および議決権行使へのアプローチをご覧ください。

弊社のガイドラインと推奨事項に従って議決権行使結果については、通常、四半期ごとにWebサイトで公開しています。結果の詳細については、弊社のウェブサイトをご覧ください。

重要な議決権行使の理由を含む、日本株式の議決権行使結果の開示については、日本スチュワードシップのウェブサイトをご覧ください。

株主提案へのアプローチ

弊社のアプローチは、投資家に代わって株主価値の最大化に資する議決権行使に注力しており、株主提案に対する議決権行使は、個別案件の内容に応じて決定します。さまざまな要因が運用成果に影響を与え、潜在的な投資リスクを高め、経営陣の優秀さとリーダーシップを判断する目安になり得ると弊社は考えています。株主提案を評価する際、弊社は、長期的な株主利益の向上に資するかの観点から、各提案の目的と影響を評価するよう努めており、以下のような要因を考慮する場合もあります。

- その会社の現在の情報公開水準
- その会社が、サステナビリティ会計基準委員会（SASB）の重要性基準もしくは類似基準に基づく報告計画を実施しているか、またはその実施を公約しているかどうか
- その提案が、株主価値の向上に資する、または保護する可能性が高いか否か

以下の場合、株主提案を支持しない可能性があります：

- 提案が過度に規範的（企業行動を特定する、縛るような内容）であるか、過度に負担が大きい場合
- 提案の対象が投資における重要な考慮要素ではない。
- 提案の履行に伴う多大なコストや風評リスクが伴う。
- 既存の開示はすでに提案の要求事項を実質的に満たしている。

場合によっては、株主投票に付される環境・社会テーマに重点を置いた株主提案は、企業が実施するには規範的（企業行動を特定する、縛るような内容）である可能性があります。こうした場合、当社は提案の性質や当社による追加の開示が適切かどうかに関する当社の見解を表明するため、これらの企業と対話をするよう努めます。

オルタナティブ

弊社の権利と責任の行使方法

GSオルタナティブは主に上場株式ではないプライベート市場における資産に投資しているため、正式な議決権行使方針の開示が当ビジネスに適切または相応しいとは考えておりません。例えばポートフォリオ企業が上場するなど、当社オルタナティブが上場株式を保有する稀なケースでは、当社は株主権利を行使し、適切と考える方法で企業と関わります。

GSオルタナティブのビジネスモデルのビジネス・モデルの本質は、顧客の長期的な利益のためにポートフォリオ企業と資産の成長をサポートするために権利と責任を行使しようとすることを意味します。弊社は必要に応じて権利と責任を行使します。

原則6　機関投資家は、議決権の行使も含め、スチュワードシップ責任をどのように果たしているのかについて、原則として、顧客・受益者に対して定期的に報告を行うべきである。

公開市場を対象とする運用

弊社は、さまざまな方法で、スチュワードシップ活動を顧客やその他のステークホルダーに報告しています。弊社のスチュワードシップレポートでは、スチュワードシップ責任推進部の取り組みの概要を説明しています。当レポートは、ベストプラクティスを促進し、ポジティブな変化を推進するためのスチュワードシップ活動、すなわち、議決権行使と結果ベースのエンゲージメント活動に焦点を当てています。当レポートは、弊社のウェブサイトで毎年公開されます。また弊社は毎年、米国証券取引委員会への提出書類と、米国で登録されているすべてのミューチュアルファンドのウェブサイトで議決権の行使結果を公開しています。また、弊社の議決権行使ガイドラインに従って投票された議決権の行使結果については、通常、四半期ごとにWebサイトで公開しています。

さらに、ニーズに応じて、四半期ごと、半年ごと、または年次で、ポートフォリオ固有の議決権行使およびエンゲージメントレポート等の報告を顧客に提供することができます。弊社顧客のニーズに応じて、これらの個別報告の内容について顧客と直接議論する機会持つことがあり、弊社はこうした機会を歓迎します。

オルタナティブ

弊社の顧客は、投資対象のファンドに固有の四半期および年次レポート、および必要に応じて1対1のミーティングを通じて、ファンドの活動とパフォーマンスに関する定期的な最新情報を受け取ります。オルタナティブ事業では、持続可能性と管理に対する弊社の全体的なアプローチに関する顧客のデューデリジェンスアンケートや定期的なアンケートへの回答もよく求められます。これをサポートするために、サステナビリティとインパクトチームは、顧客および将来の顧客に弊社のESGの取り組みについて知らせるために使用される一貫したコンテンツを作成しています。

特定の投資戦略については、ESGに特化したレポートも投資家に提供しています。たとえば、弊社の環境および気候戦略については、投資家向けに各ポートフォリオ企業の影響主要業績評価指標(「KPI」)を含む年次影響レポートを発行しています。

原則7　機関投資家は、投資先企業の持続的成長に資するよう、投資先企業やその事業環境等に関する深い理解のほか運用戦略に応じたサステナビリティの考慮に基づき、当該企業との対話やスチュワードシップ活動に伴う判断を適切に行うための実力を備えるべきである。

弊社は、ESG要因は、投資リスクを特定し、機会を捉えるための重要なツールになる可能性があると考えています。弊社の投資チームは、投資スタイルおよび特定の戦略ガイドラインと一致する方法でESG情報を分析することがあります。ESG要因を利用して、投資除外対象を設定したり、ティルトを付与したり、ESG格付けの高い証券を選択したりすることができます。さらに、持続可能性の向上に向けたトレンドの恩恵を受け、導入を加速させたいと考えている顧客のためには、弊社は顧客の志向する社会への好影響やインパクトと財務的な視点を両立して顧客の資産を運用することを目指します。
弊社はESGに多くのリソースを投入しています。ESG関連の調査、ポートフォリオ管理、スチュワードシップ、データ、分析ツール、およびリスク管理が主要業務である特定の投資専門家がいます。これらの専門家は通常、投資およびアドバイザリーチームに組み込まれています。また、ポートフォリオマネージャーがESG情報やポートフォリオ構築手法にアクセスできるようにするために、独自のプラットフォームセットを構築するという投資も行っています。
弊社の投資商品の中には、ESG要因をどのように統合するかという観点から、さまざまな実践があります。特定の戦略では、ESG要因を統合しない場合があります。該当する場合、ESG統合は、分析、スクリーニング、ポートフォリオ構築の考慮事項を含むさまざまなアプローチを取る場合があります。

公開市場を対象とする運用

他者との協働
ゴールドマン・サックスのリソースと知識を活用することで、スチュワードシップ責任推進部は当社の顧客にとってのソート・リーダーとなることを目指します。 同チームは、さまざまなカンファレンスや業界フォーラムでゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントを代表し、戦略的な業界の取り組みを支援しています。
当社は毎年数多くのフォーラムやメディアイベントに参加し、さまざまな地域におけるコーポレートガバナンスとサステナビリティの業界に関する見解を得ています。弊社は、業界の影響力を高め、メンバーシップや提携を通じてスチュワードシップのベストプラクティスを推進することを目指しています。業界団体等の参加状況の詳細については、スチュワードシップレポートをご覧ください。